



●屋外巡回監視ロボット
「セコムロボットX」



●要介護者自立支援ロボット
「セコムリフト」



●食事支援ロボット
「マイスプーン」



●指示者追尾型現金送ロボット
「セコムロボット」

「人の代わりが確実にできる」をコンセプトに 社会への貢献をめざすセコムのロボット開発

ここ数年、エンターテインメントを中心にさまざまなロボットが開発されています。セコムでは、十数年前からロボットの開発に取り組んでいますが、そのコンセプトは「人の代わりが確実にできる」実用的なロボット開発。現在、セキュリティや介護・福祉の分野で社会への貢献をめざすロボットを4機種開発しています。



We are SECOM.

セコムグループの目標 「社会システム産業」の構築

〈ビジョン〉

Originate New SECOM

新生セコムへの第二の創業

〈理念〉

We are SECOM

セコムカルチャーの透徹

〈2004年基本方針〉

創 変

株主のみなさまへ



株主のみなさまには、日頃よりセコムグループの活動にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

2004年度中間期の連結売上高は2,531億円(前年同期比2.6%増収)、営業利益は365億円(前年同期比2.3%減益)、経常利益は359億円(前年同期比2.2%増益)、中間純利益は201億円(前年同期比12.1%増益)となりました。

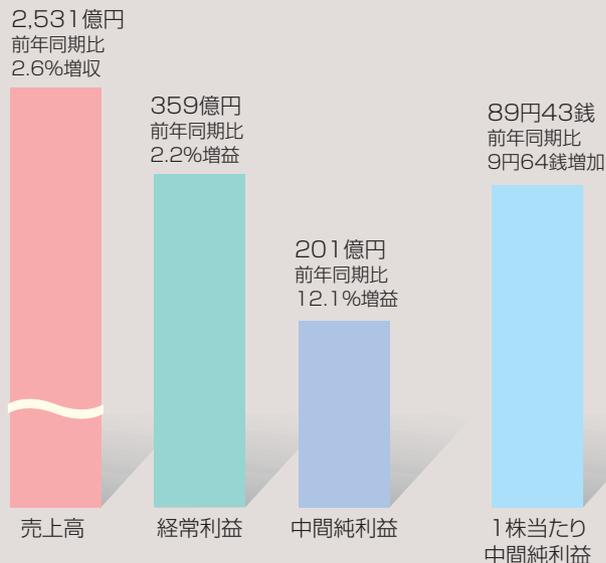
同じく単体の売上高は1,467億円(前年同期比3.4%増収)、営業利益は332億円(前年同期比2.5%増益)、経常利益は345億円(前年同期比5.9%増益)、中間純利益は210億円(前年同期比7.0%増益)となり、中間期において過去最高となる成果を収めました。

今後も、“あらゆる不安のない社会”の実現に向け、企業目標である「社会システム産業」の本格展開により、社会に貢献してまいりますので、一層のご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

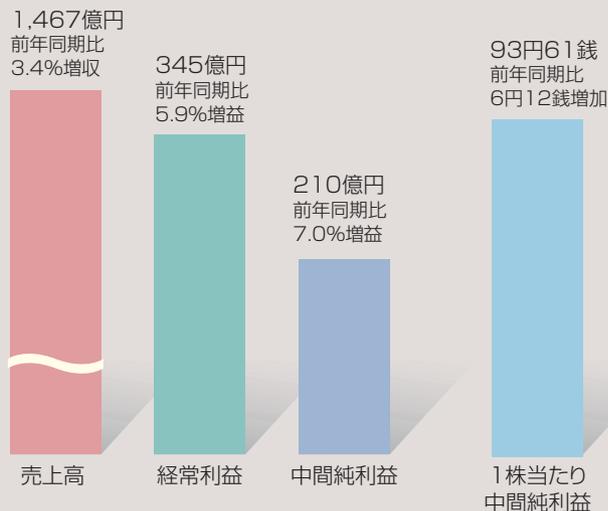
2004年12月

セコム株式会社代表取締役社長 **本村 昌平**

2004年度中間期の業績(連結)



2004年度中間期の業績(単体)



「事業融合による新たな成長」に向けて

セコムグループが成長し続けるためのグランドデザインを描き、その実現に情熱を傾ける木村社長に、「2004年度中間期の連結業績」「これまでに展開してきた成長戦略」「セコムグループの新成長戦略」について聞きました。



代表取締役社長
木村 昌平

Q セコムグループの2004年度中間期の経営成績および通期の見通しについて概括をお願いします。

売上高・経常利益・中間純利益が過去最高を更新

当中間期における日本経済は、個人消費は依然として力強さを欠くものの、世界経済の回復に伴う輸出や民間設備投資の増加を背景に、ようやく景気回復の兆しが現れてきました。

そうした状況のなかで、私たちセコムグループは、引き続き「社会システム産業」の実現をめざして、社会のニーズに応えた新しいサービスや商品の開発・提供に努めるなど、積極的に事業を推進しました。

その結果、2004年度中間期の連結売上高は2,531億円、前年同期比2.6%の増収と中間期の過去最高となりました。また、営業利益は365億円、前年同期比2.3%の減益、経常利益は359億円、前年同期比2.2%の増益、中間純利益は201億円、前年同期比12.1%の増益とな

りました。なお、営業利益の減益は、当中間期、史上最多の台風に見舞われたことから、セコム損害保険(株)が約20億円の保険契約準備金を積み増したことによるものです。

事業別に見ると、セキュリティサービス事業の売上高は1,840億円、前年同期比2.8%の増収、営業利益は468億円、前年同期比3.1%の増益、メディカルサービス事業の売上高は123億円、前年同期比17.8%の増収、営業利益は4億円、前年同期比8.9%の減益、保険事業の売上高は143億円、前年同期比0.9%の減収、営業損益は16億円の営業損失、情報・通信・その他の事業の売上高は423億円、前年同期比0.8%の減収、営業損益は21億円の営業損失となりました。

セコム単体の業績は、売上高が1,467億円、前年同期比3.4%の増収、営業利益が332億円、前年同期比2.5%の増益、経常利益が345億円、前年同期比5.9%の増益、中間純利益が210億円、前年同期比7.0%の増益と、いずれも中間期の過去最高となりました。

2004年度通期の連結業績も好成績の見通し

通期の連結業績については、事業所向けの画像監視によるオンラインセキュリティシステム「セコムAX」や、押し込み犯罪を防止するためのモニター機能を付加した「セコムDX」などのセントラライズドシステムを中心にしたセキュリティサービス事業が引き続き順調に推移することが予想されることから、売上高は5,538億円、前期比5.0%の増収、営業利益は830億円、前期比2.1%の増益、経常利益は823億円、前期比7.9%の増益、当期純利益は454億円、前期比10.4%の増益を見込んでいます。

セコム単体については、売上高2,983億円、前期比3.4%の増収、営業利益は656億円、前期比2.1%の増益、経常利益647億円、前期比4.1%の増益、当期純利益383億円、前期比11.7%の増益を見込んでいます。

なお、実際の業績はさまざまな要因により予想数値と異なる可能性があることをお断りしておきます。

Q 現在、「事業融合による新たな成長」を基本戦略方針にされていますが、それを実現するためにどのような戦略を展開されていますか。

事業・サービスの融合化を推進

二つの戦略を推進しています。一つは、事業・サービスの融合戦略です。

たとえば、セキュリティと損害保険を融合したものとして、「火災保険セキュリティ割引」「セコム安心マイホーム保険」があります。これはオンラインセキュリティサービスを利用されている方にメリットのある保険で、セキュリティによるリスク軽減分を価格に反映させたものです。このほか、セコムの緊急対応員が事故現場に急行するサービスのある「NEWセコム安心マイカー保険」も販売しています。

医療と損害保険を融合したものとしては、「自由診療保険メディコム」があります。これは、がんの治療費の実額を補償し、経済的な負担を心配することなく最先端の治療が受けられるユニークな保険です。これから大きな成長が見込める商品なので大いに期待をしています。

セキュリティと地理情報システムの融合から誕生したのが、位置情報提供サービス「ココセコム」です。これは大反響を呼び、今ではセコムの主力商品の一つとして売り上げに大きく寄与しています。

「セコム・ホームセキュリティ」と医療サービスを融合した「セコム・メディカルクラブ」は、「セコム・ホームセキュリティ」のご契約先に予防医療や健康増進につながるサービスを無償（一部有償）で提供し、「セコム・ホームセキュリティ」



●「セコム・ホームセキュリティ」



●「セコム・メディカルクラブ」のナースセンター

に競争優位性をもたらしています。

このほか、フィジカルセキュリティとサイバーセキュリティを融合した、わが国でも最高レベルのセキュリティ対策を施した「セキュアデータセンター」、セキュリティと情報サービスを融合した、災害時の安否確認サービス「セコム安否確認サービス（e-革新きずな）」などがあります。

セコムグループは、こうした事業・サービスの融合から生まれる新しい価値によってさらなる飛躍をめざしています。

商品・サービスの差別化を促進

もう一つは、商品・サービスの差別化戦略です。

事業所向けについて言えば、画像監視による先進的なオンラインセキュリティシステム「セコムAX」はいまだに類似商品がありません。さらに、この「セコムAX」に、大音響とともに煙で視界を遮断し犯行を中止させる「フォギープロテクション」を付加させたことにより、「現在考え得る最高の防犯システム」という評価を得ています。

また、多くの機能を付加できる汎用性の高い「セコムDX」には、最近急増している押し込み犯罪を防止するため

に新たにモニター機能を付加しました。そして、遠隔画像監視システム「セコムIX」は営業時間帯の安全対策に最適な機能を持つこれまでにないシステムです。

家庭向けでは、凶悪化する犯罪への対抗策として発売した、凶悪犯などの侵入を防止するセンサー付き防犯合わせガラス「SECOMあんしんガラス」と、わが国初の顔検知機能を内蔵したインターホンシステム「セキュリフェースインターホン」は、売り上げ増に大きく寄与しました。このほか、強盗に押し込まれたときに寝室などを簡易なパニックルームにできる「セコムストロングドア」も発売しています。

「ココセコム」については、従来の人用、車用、物用からペット、ヨット、そして通学時の子どもの安全を守るため、ランドセルにまで用途が広がっています。

これらはすべて他社の追従を許さないオンリーワン商品・サービスとしてセコムグループの成長を牽引する役割を果たしています。



●「フォギープロテクション」を付加した「セコムAX」



Q 今後の成長戦略としてどのようなビジョンをお持ちですか。特にセキュリティ事業、メディカル事業、損害保険事業の各々についてお話しください。

新たな成長のための事業ビジョン

セキュリティ事業については、すべてのシステムをブロードバンド時代の最先端技術で革新することによって新しい競争環境のなかで成長戦略を展開します。また、“あらゆる不安のない社会”を実現するために、狭義の「セキュリティサービス」から広義の「安心サービス」への進化を図り、社会から全幅の信頼を寄せられる会社になることをめざしています。

メディカル事業については、少子高齢化という社会の大きな変化に対応して、高齢社会を支える健康維持・増進と予防医療の事業化を実現すること。そして、さまざまな問題が露呈してきている日本の医療供給体制を抜本的に改革して、これまでの「与えられる医療」から「選択の自由のある医療」への転換を促進するために、病院と在宅医療と遠隔医療を組み合わせた最適医療供給システムを創造し提供すること。その結果として、医療でも「セコムがあれば安心」という評価を得たいと考えています。

損害保険事業については、売り上げ規模で他の損害保険会社と競合するのではなく、セコムグループならではの新しい発想、すなわちセキュリティサービスやメディカルサービスの視点から発想し開発したユニークな新商品を提供し続けること。そうすることによって、小規模ではあるが信頼感と安定感のある損害保険会社として独自の地歩を築くことをビジョンにしています。

連結決算報告

●中間連結貸借対照表(要旨)

(2004年9月30日現在)

単位:億円

資 産 の 部	
流動資産	4,403
現金及び預金	1,783
コーポレート	270
受取手形及び売掛金	286
未収契約料	167
有価証券	576
たな卸資産	506
短期貸付金	545
その他	268
固定資産	6,297
有形固定資産	2,526
建物及び構築物	807
警報機器及び設備	663
土地	844
その他	210
無形固定資産	333
投資その他の資産	3,437
投資有価証券	2,276
長期貸付金	582
繰延税金資産	208
その他	369
繰延資産	1
資産合計	10,703

負債の部	
流動負債	2,306
支払手形及び買掛金	138
短期借入金	1,024
未払金	150
未払法人税等	174
前受契約料	310
その他	508
固定負債	3,963
社債	328
長期借入金	396
預り保証金	291
退職給付引当金	121
保険契約準備金	2,805
その他	20
負債合計	6,269
少数株主持分	301
資本の部	
資本金	663
資本剰余金	825
利益剰余金	3,180
その他有価証券評価差額金	69
為替換算調整勘定	△162
自己株式	△444
資本合計	4,131
負債、少数株主持分及び資本合計	10,703

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

主な連結子会社の紹介

●セコム上信越株

1967年5月に設立。新潟市に本社を置き、新潟、長野、群馬の3県をエリアとする上信越地方最大のセキュリティ会社。2002年2月に東証二部上場。セキュリティ事業のほか、在宅介護サービスの提供など、医療や情報分野にも積極的に取り組み、「社会システム産業」の構築をめざしています。

●セコムテクノサービス株

1970年5月に設立。本社は東京都中野区。1999年10月に東証二部上場。セコムの安全システム工事を中心に、電気設備などの建築設備を施工。また快適なビル環境の実現に向けて建築設備のメンテナンスを核に、設計から施工、維持管理までの一貫したトータルサービスを提供しています。

●セコム医療システム株

2002年3月、セコムグループのメディカル事

業を統合し設立。セコムグループのメディカルサービスを統轄しています。訪問看護や在宅介護サービスのほか、ITを駆使したわが国初の医療機関向け遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」や、電子カルテなど、独自のメディカル事業を展開しています。

●セコム損害保険株

1998年9月、東洋火災海上保険株にセコムが資本参加。現在はセコム損害保険株としてセコムが筆頭株主となっています。セコムグループのシ

● 中間連結損益計算書(要旨)

(2004年4月1日から2004年9月30日まで)

単位:億円

売 上 高	2,531
売 上 原 価	1,557
売 上 総 利 益	973
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	607
営 業 利 益	365
営 業 外 収 益	44
営 業 外 費 用	49
経 常 利 益	359
特 別 利 益	11
特 別 損 失	7
税金等調整前中間純利益	363
法人税、住民税及び事業税	162
法人税等調整額	△ 11
少 数 株 主 利 益	11
中 間 純 利 益	201

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

＜参考＞

- ・ 連結子会社数 130社
- ・ 持分法適用非連結子会社数 1社
- ・ 持分法適用関連会社数 35社
- ・ 1株当たり中間純利益 89円43銭

ナジーを最大限に生かし、自由診療保険「メディコム」や、現場急行サービスも行う「NEWセコム安心マイカー保険」など、業界他社とは異なるセコムグループならではの保険商品を販売しています。

● セコムトラストネット(株)

サイバーセキュリティ事業の戦略的展開を図るため、2000年4月に設立。ネットワーク上の情報を守るサイバーセキュリティ、電子商取引や電子申請に不可欠な高度電子認証サービスを提供。またフィジカル・サイバー両面で世界最

高水準のセキュリティを誇るセキュアデータセンターでは、4大金融グループの電子認証局構築・運用を受託しています。

● (株)パスコ

1999年8月にセコムグループ入りした、地理情報サービス(GIS)と航空写真測量の東証一部上場企業。欧米をはじめ世界に共同開発拠点を置き、グローバルなネットワークを構築。システム技術、測量・計測技術、建設コンサルタント技術を融合した新情報サービスを提供し、さ

■ 営業の概況(連結)

当中間連結会計期間の連結売上高は2,531億円(前年同期比64億円、2.6%の増収)、連結営業利益は365億円(前年同期比△8億円、2.3%の減益)、連結経常利益は359億円(前年同期比7億円、2.2%の増益)、連結中間純利益は201億円(前年同期比21億円、12.1%の増益)となりました。

当グループの各事業の種類別売上高は次の通りとなっています。

● セキュリティサービス事業

1,840億円(前年同期比 2.8%増)

● メディカルサービス事業

123億円(前年同期比 17.8%増)

● 保険事業

143億円(前年同期比 0.9%減)

● 情報・通信・その他の事業

423億円(前年同期比 0.8%減)

● 連結売上高合計

2,531億円(前年同期比 2.6%増)

(注)金額は外部顧客に対する売上高で、億円未満を切り捨てて表示しております。

らにGISの新規市場を開拓しています。

● セコム 西科姆中国グループ

1992年12月設立。本社は北京市。1993年7月、西科姆中国有限公司は、日本企業初の持ち株会社としての認可を取得。現在、大連、上海、北京、青島で展開する中国グループ各社の管理統轄の役割を持っています。

上記4市で、各地の現地法人と合併でセキュリティ会社を設立し、オンライン安全システムを提供しています。

単体決算報告

● 中間貸借対照表(要旨)

(2004年9月30日現在)

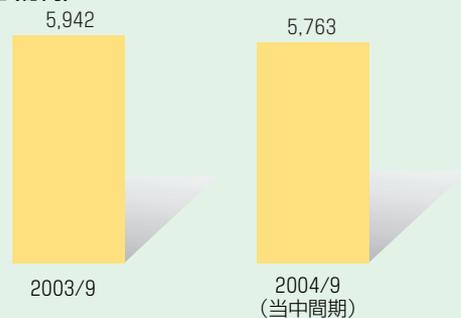
単位:億円

資 産 の 部	
流動資産	1,853
現金及び預金	1,038
未収契約料	85
売掛金	51
たな卸資産	82
短期貸付金	459
その他	136
固定資産	3,909
有形固定資産	1,322
建物	252
警報機器及び設備	619
土地	360
その他	90
無形固定資産	106
投資その他の資産	2,480
投資有価証券	510
子会社株式・出資金	1,314
長期貸付金	242
長期前払費用	198
繰延税金資産	131
その他	82
資産合計	5,763

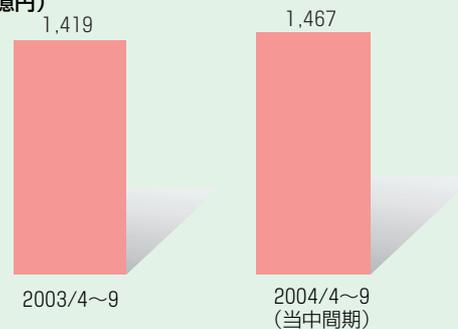
負債の部	
流動負債	1,157
買掛金	23
短期借入金	281
未払金	127
未払法人税等	128
預り金	270
前受契約料	217
その他	107
固定負債	517
社債	300
退職給付引当金	48
その他	169
負債合計	1,674
資本の部	
資本金	663
資本剰余金	825
利益剰余金	3,021
株式等評価差額金	22
自己株式	△444
資本合計	4,088
負債及び資本合計	5,763

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

■ 総資産(億円)



■ 売上高(億円)



● 中間損益計算書(要旨)

(2004年4月1日から2004年9月30日まで)

単位:億円

売上高	1,467
売上原価	798
販売費及び一般管理費	336
営業利益	332
営業外収益	39
営業外費用	27
経常利益	345
特別利益	1
特別損失	8
税引前中間純利益	338
法人税、住民税及び事業税	124
法人税等調整額	3
中間純利益	210
前期繰越利益	2,690
中間未処分利益	2,901

■ 営業の概況(単体)

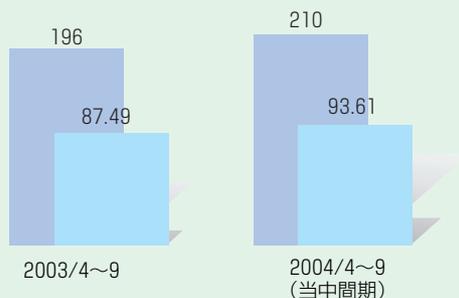
当中間期の売上高は1,467億円(前年同期比47億円、3.4%の増収)、営業利益は332億円(前年同期比8億円、2.5%の増益)、経常利益は345億円(前年同期比19億円、5.9%の増益)、中間純利益は210億円(前年同期比13億円、7.0%の増益)となりました。

(注)金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

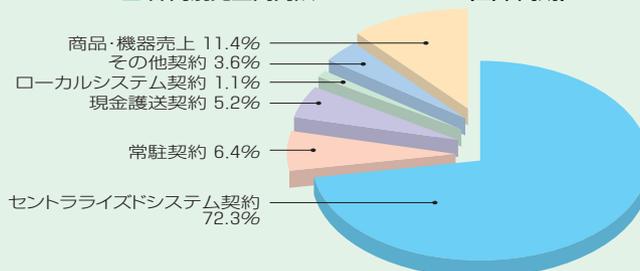
〈参考〉

- ・1株当たり中間純利益 93円61銭
(期中平均株式数により算出しております。)

■ 中間純利益(億円)および1株当たり中間純利益(円)



■ 部門別売上高内訳 2004/4~9(当中間期)



セコムは、企業や家庭や個人にとって安全で便利で快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築を企業目標としています。社業を通じて社会に貢献できるよう、「社会システム産業」の本格展開をますます加速させてまいります。

セコムのロボット開発

セコムは、「人の代わりが確実にできる」をコンセプトにロボット開発を行っています。2002年にわが国初の食事支援ロボット「マイスプーン」を発売して以来、セキュリティと介護・福祉の分野でロボットを相次いで開発しています。

わが国初、屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」を開発 2004年7月

工場などの広い敷地の防犯ニーズの高まりを受け、わが国初、屋外を巡回移動する本格的なロボット「セコムロボットX」を開発しました。時速10kmでの俊敏な移動と各種監視カメラ、音声や発煙による威嚇機能が特長で、来年度の商品化をめざします。



日本初の食事支援ロボット「マイスプーン」をオランダに輸出 2004年9月

わが国初の食事支援ロボットとして2002年5月に発売以来、障害者の食卓を大きく変えた「マイスプーン」が、福祉先進国のオランダで高く評価され、同国での販売が開始されました。日本から欧州に輸出される本格的な福祉機器第1号として大きな注目を集めています。



要介護者自立支援ロボット「セコムリフト」の試作機完成 2004年10月

重度身障者向けとしてはわが国初となる要介護者自立支援ロボット「セコムリフト」の試作機を完成させ、10月5日に発表しました。高齢者や障害者の方が、自分でベッドから車いすなどに乗り移ることで自立を支援する「セコムリフト」は、来年度に商品化する計画です。



セキュリティ事業

空調・給排水設備工事大手の(株)東北エンタープライズを支援 2004年7月

セコムテクノサービス(株)は、福島県の空調・給排水設備工事のトッ

プ企業で5月に民事再生法を申請した(株)東北エンタープライズと営業譲渡契約を締結。(株)東北エンタープライズは、10月1日からセコム東北エンタープライズ(株)として再出発しました。

ICタグを使ったわが国初の本格的なセキュリティシステム「セコムICタグ管理システム」を発売 2004年8月

近年、巧妙化する犯罪や内部犯行の増加を受け、セコムではこれまで培ったセキュリティのノウハウとICタグの技術を融合させ、重要物の持ち出し管理や、荷物の運送記録を行うICタグを使った本格的なセキュリティシステムとして、「セコムICタグ管理システム」を発売しました。

侵入を庭先で食い止める「屋外画像監視サービス」を開始 2004年9月

「セコム・ホームセキュリティ」のお客様専用のサービスとして、凶悪化する住宅侵入犯罪を未然に防ぐための、「屋外画像監視サービス」を9月から本格的に開始。敷地内への侵入をセコムが画像監視し、遠隔での音声警告や緊急対処員の急行、110番通報などを行います。



家庭用指紋照合システム「セサモ・ホームIDs」を発売 2004年10月

セコムは、わが国初の本格的な家庭用指紋照合システム「セサモ・ホームIDs」を発売しました。1988年にわが国初の指紋照合システムを発売して以来、性能向上に取り組み、今回、精度を飛躍的に向上させ、「セコム・ホームセキュリティ」との連動も可能にしました。



ランドセルトップメーカーの(株)協和と提携、「ココセコム」つきランドセル「オリビエナブランド」を発売 2004年11月

セコムはランドセルトップメーカーの(株)協和と提携し、業界で初めて位置情報提供サービス「ココセコム」の通信端末を搭載したランドセル「オリビエナブランド」を発売しました。2001年の発売開始以来、貢献事例が2000件にのぼる「ココセコム」。今回、(株)

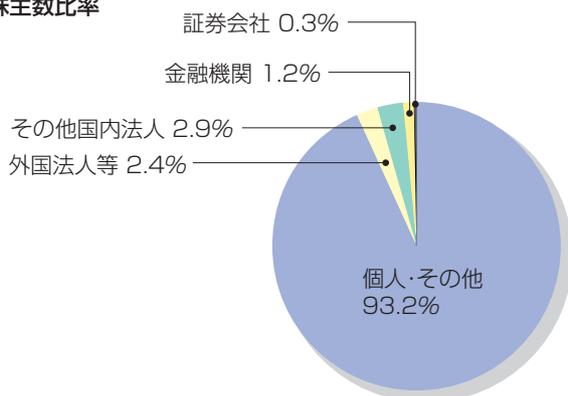


● 株式情報

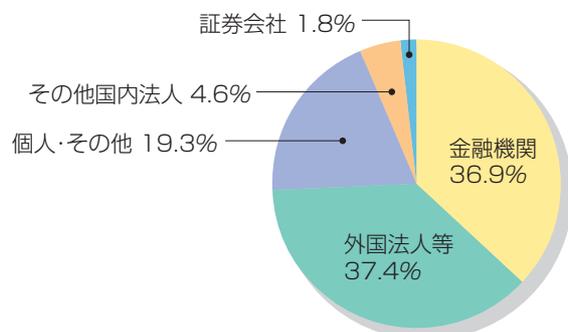
株式の状況 (2004年9月30日現在)

1. 会社が発行する株式の総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,282,818株
3. 1単元の株式数 500株
4. 株主数 21,863名
5. 所有者別状況

■ 株主数比率



■ 株式数比率



株主メモ

- 決算期 3月31日
- 定時株主総会 6月下旬
- 株主配当金支払株主確定日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 基準日 3月31日
(その他必要あるときは、あらかじめ公告した日)
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
〔日本経済新聞による決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページに掲載しております。
<http://www.secom.co.jp/bspl/>〕
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部
大阪証券取引所市場第1部
- 証券コード 9735
- 名義書換代理人
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所
東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
- 同連絡先(郵便物送付、電話照会)
〒171-8508 東京都豊島区西池袋1丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
電話0120-707-696(フリーダイヤル)

お知らせ

1. 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っております。
2. 配当金を郵便貯金口座へお振り込みすることができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

●会社概要

(2004年9月30日現在)

資 本 金

66,370百万円

社員数(グループ総数)

36,427名

事 業 内 容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。2001年4月からは、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備や現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、現在、安全システムの普及を通じて培ってきた日本最大級の情報通信ネットワークをベースに、安心で、便利で、快適なサービスシステムを創造し、それらをトータルに提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

ホームページのご案内

<http://www.secom.co.jp/>

会社情報・IR情報、商品・サービスについて
ご案内しております。

取締役 (2004年11月30日現在)

取締役(最高顧問)	飯田亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
取締役会長	杉町壽孝
代表取締役	木村昌平
取締役	原口兼正
取締役	佐々木信行
取締役	桑原勝久
取締役	前田修司
取締役	秋山勝夫
取締役	田尾陽文
取締役	小幡文雄

監査役 (2004年11月30日現在)

監査役(常勤)	荻野輝雄
監査役	常松健
監査役	安田弘
監査役	山下耕平

執行役員 (2004年11月30日現在)

社長執行役員	木村昌平
副社長執行役員	原口兼正
専務執行役員	佐々木信行
専務執行役員	田中重實
専務執行役員	桑原勝久
専務執行役員	小林清一郎
専務執行役員	小懸昇一
専務執行役員	前田修司
専務執行役員	秋山勝夫
執行役員	田尾陽文
執行役員	森誠一
執行役員	山中征二
執行役員	飯田志農
執行役員	井東雄志郎
執行役員	小幡文雄
執行役員	伊藤博
執行役員	小河原俊二
執行役員	才田正明
執行役員	杉井清昌
執行役員	佐藤興一
執行役員	高岡実
執行役員	知野吉弘
執行役員	佐々木守晃
執行役員	堤谷友男

※当社は、2004年6月29日付で執行役員制度を導入いたしました。

SECOM

ご近所に空き巣が入った。 つい、すれちがう人を 怪しんでしまう私。

「もしかして、この人…」 「いや、あの人が、アヤしい…」
あころの私は、どうかしてた。ご近所で見知らぬ人とすれちがうたび、
心の中で空き巣の疑いをかけていました。
こんどは私の家が狙われるかもしれない…。入られてからじゃ遅いんだ。
セコムしようと思ったのは、そんな空き巣の危険性をリアルに感じたから。
24時間・365日、ずっと見守ってしてくれる。
万一の時には、すぐに駆けつけてきてくれる。
今では、あの不安な日々が嘘のように
安心して暮らしています。



- | | |
|---|---|
| 1 | 防犯センサーが異常を感知し、信号をコントロールセンターに伝えます。 |
| 2 | 現場への急行を指示するとともに、お客様に状況確認のお電話をおかけします。 |
| 3 | 2,100ヶ所の拠点から「安全のプロ」である緊急対応員がお客様宅へ急行します。 |

最高の安心は、最悪の想像から生まれる。 セコム・ホームセキュリティ

フリーダイヤルで、インターネットで、お問い合わせ・資料請求は、
24時間・365日、いつでもお気軽に。

フリーダイヤル

レッツ コー セ コ ム

インターネット



0120-025756 www.secomtown.com

